

平成25年度 和歌山県学習到達度調査

結果分析と指導のポイント

中学校 国語

平成26年2月  
和歌山県教育委員会



# 中学校国語 結果分析と指導のポイント

## 1 出題のねらい

- ①当該学年の基礎的・基本的な知識・技能及びそれらを活用する力が身についているかをみるため、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕から出題した。
- ②「話すこと・聞くこと」では、話の論理的な構成や展開などに注意して聞く力や話す力をみることをねらいとした。
- ③「書くこと」では、本文から必要な情報を読み取り、指定された字数でまとめて、相手に伝わるように書く力をみることをねらいとした。
- ④「読むこと」では、具体例に注意して筆者の主張や論理の展開を正しく読む力や、描写や心情を表す語句に注意して話の展開を整理する力をみることをねらいとした。特に、第1学年の説明文の問題では、読んだ文章の内容を新聞にまとめる場面を設定し、分かりやすい見出しや限られた字数で記事を書くという条件のもとで、要約する力を活用する問題を出題した。
- ⑤〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕では、小学校学年別漢字配当表に示されている漢字を楷書で正しく整えて書く力や、当該学年11月までに学習したその他の常用漢字を正しく読む力、対義語や敬語、単語を活用する力等をみることをねらいとした。

## 2 調査結果の概要

○漢字の読みや言葉のきまり等、基礎的・基本的な内容については概ね良好であるが、文章を読み取り、記述する問題等に課題がみられる。

【第1学年】

□全体と部分との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話す速さを考えて話すことや、聞き取りのメモをとることは、相当数の生徒ができています。

[3] (1)93.3% (2)89.4%

■段落の役割や、段落どうしの関係に着目して文章の構成をとらえることに、課題がみられる。

[4] (1) 36.2%

【第2学年】

□登場人物の行動を、描写や心情を表す語句に注意して読み取ることは、概ね良好である。

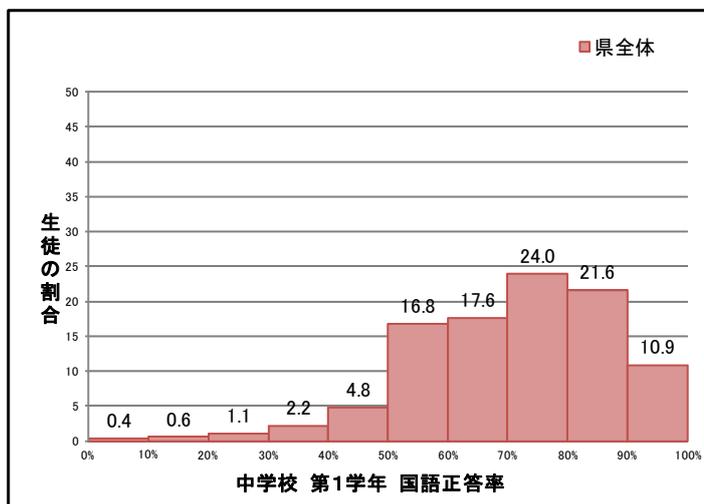
[5] (3)79.7%

■書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえて読むことに、課題がみられる。

[4] (2)① 34.0%, 無解答率 18.4%

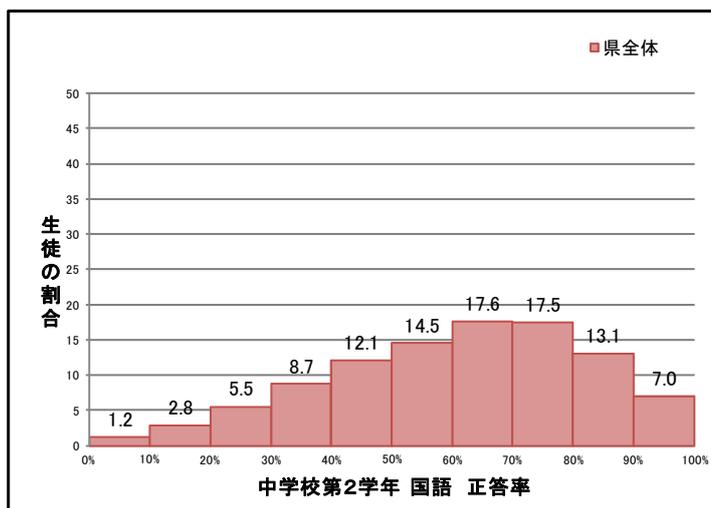
## 中学校国語 第1学年

分類	区分	平均正答率(%)
		県全体
基礎活用	基礎	81.0
	活用	42.4
領域等	話すこと・聞くこと	91.4
	書くこと	12.6
	読むこと	56.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	84.6
観点	話す・聞く能力	91.4
	書く能力	12.6
	読む能力	56.5
	言語についての知識・理解・技能	84.6
問題形式	選択式	76.5
	短答式	79.5
	記述式	34.9



## 中学校国語 第2学年

分類	区分	平均正答率(%)
		県全体
基礎活用	基礎	62.0
	活用	55.7
領域等	話すこと・聞くこと	72.2
	書くこと	59.5
	読むこと	47.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.5
観点	話す・聞く能力	72.2
	書く能力	59.5
	読む能力	47.7
	言語についての知識・理解・技能	67.5
問題形式	選択式	63.4
	短答式	60.5
	記述式	55.8



### 3 誤答例とその分析

○第1学年 正答率の低い問題にみられる誤答例とその分析（基礎・基本問題）

(1) この文章を意味の上から大きく二つのまとまりに分けると、第二のまとまりはどの段落から始まりますか。その段落番号を書きなさい。

# 本文

4

次の文章を読んで、あとの(1)～(3)に答えなさい。  
1～13は段落番号を表す。

内容領域・評価の観点	正答率	無解答率
文章の構成・読む能力	36.2%	2.0%

主な誤答例	分析・考察、指導のポイント
(1) ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7</span> 、 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">9</span>	<p><b>分析・考察</b></p> <p>○本問は、段落の役割や段落相互の関係に着目して、文章の構成をとらえることができるかどうかを問うたものである。誤答例としては、第7段落、第9段落を解答とした生徒が多かった。第7段落と解答した生徒は、意味段落に分ける際の手がかりとなる接続詞「そこで」に着目して考えることはできたものの、それが第1～6段落の内容を踏まえて第7段落を述べるために使われているということが理解できていなかったと思われる。また、第9段落と解答した生徒は、「北海道の厚岸湖の例」が書かれた第9～13段落を1つの意味段落としてとらえてしまったと考えられる。</p> <p><b>指導のポイント</b></p> <p>○文章を読むとき、一文ずつ、あるいは一段落ずつたどって読むことにとらわれ、文章全体の構成や展開を概観することを苦手とする生徒が多いと思われる。しかし、説明的な文章の内容を理解し、要旨をとらえるためには、叙述に即して読み取ったり、細部の表現に注意して読んだりするだけでなく、文章全体を概観し、文章がどのように構成されているのか、筆者がどのように論理を展開しているかを的確に把握していくことが必要である。そのためには、意味段落に分けていく視点として、次の3点が挙げられる。          ①接続詞に着目する。②文章中に頻繁にでてくる言葉に着目し、その前後のつながりに着目する。③結論として述べていることは何か。また、結論はどこに書かれているのかに着目する。</p>

## 指導事例

第4問にある「森林新聞」(問題冊子P8)を利用して「新聞づくり」を言語活動に位置づけ、学習過程を意識した「C読むこと」の単元構想を示す。

※ア～カは「C読むこと」の指導事項を示している

言語活動：読んだ文章の内容を新聞にして、校内の人たちに知らせよう。～「森林新聞」の作成～

### 【指導の展開】

#### 1 ア 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。〔語句の意味の理解〕

- (1) 全文を通読させる。
- (2) 「森林がさかなを『やしなう』」の比喻表現「やしなう」の意味をとらえさせ、森林が果たす役割について読み取らせる。

#### 2 イ 文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。〔文章の解釈〕

##### エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。〔自分の考えの形成〕

- (1) 文章を大きなまとまり(意味段落)に分けさせる。(指導事項エ)

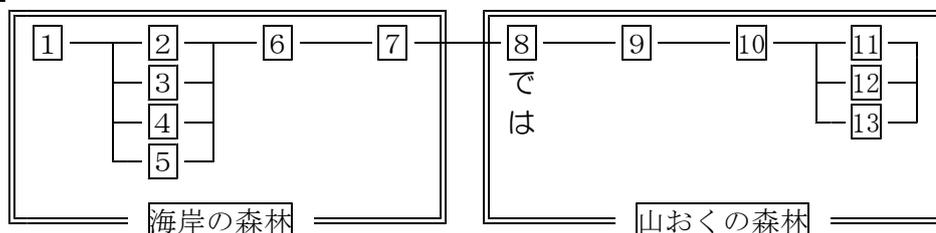
★誤答例として挙げられた第4問の(1)は、この指導事項に該当する。

- ・接続詞「では」に注目させる。(伝国 イ(エ)と関連)
- ・述べている文章の内容に注目する。

(1～7段落は「海岸の森林」について、8～13段落は「山おくの森林」について。)

★文章全体を概観し、文章がどのように構成されているのか、筆者がどのように論理を展開しているかを的確に把握させる。

参考 [文章構成図] 大きく2つのまとまりに分けることができる。



- (2) 新聞記事として必要な部分を選び、記事にまとめさせる。(指導事項イ)

下記のようなことを生徒に考えさせ、記事づくりをさせる。

- ・大きなまとまりの最初の1段落と8段落の内容は、見出しにする。  
→見出しにふさわしい字数に要約する。
- ・6段落は1段落を再度述べた段落なので、記事にはしない。

#### 【言語活動の視点】

目的(自分が読んだ文章の内容を新聞にして、分かりやすく伝えるため)を明確にし、言語活動を通して要約する力を付けさせることを念頭に置いて指導する。

#### 3 オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。〔自分の考えの形成〕

文章を読んで、森林について自分が考えたことを、コラム欄を設けて書かせる。

#### 4 カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。〔読書と情報活用〕

記事の内容がより分かりやすく伝えられる図や表を選別し、著作権に注意しながら新聞に組み入れさせる。

○第1学年 正答率の低い問題にみられる誤答例とその分析（活用問題）

5

次の文章を読んで、あとの(1)～(5)に答えなさい。  
※印には(注)がある。

# 本 文

(5) 七歳の誕生日の日に見た祖母の背中は、成長した後、雅彦にとってどのような存在になってきたことがわかりますか。五十文字以上、七十文字以内で、本文をふまえて具体的に書きなさい。(句読点も一字に数える。)

内容領域・評価の観点	正答率	無解答率
記述・書く能力	12.6%	19.9%

主な誤答例	分析・考察、指導のポイント
<p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・祖母の背中は、常に雅彦の心の隅に存在し、有頂天になるたびに、この小さな祖母の背中は雅彦を諭してくれるようになるのである。(本文を抜き出しただけのもの)</li> </ul>	<p><b>分析・考察</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本問は、文章を場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、自分の考えたことが相手に伝わるように書くことができるかどうかを問うたものである。文章から「有頂天になる」「諭してくれる」を抜き出して書くことはできているが、本文を踏まえ、祖母の背中が諭している具体的な内容を記述できている解答が少なかった。</li> </ul> <p><b>指導のポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○設問をよく読み、何が問われているのかを的確に理解することが必要である。「具体的に書きなさい」と指示されている以上、本文を抜き出すだけでは、解答としては不十分であることを指導する。</li> <li>○普段の授業の中で、「分かりやすく言い換えること」や「自分の言葉で説明すること」に取り組む機会を設けていく。</li> </ul>



○第2学年 正答率の低い問題にみられる誤答例とその分析（基礎・基本問題）

内容領域・評価の観点
漢字の書き・言語についての知識・理解・技能

	正答率	無解答率
①	25.7%	40.3%
②	49.4%	26.5%
③	83.5%	6.5%

1

次の(1)、(2)に答えなさい。

(2) 次の①～③の文中の——線部のカタカナを漢字に直し、楷書で  
ていねいに書きなさい。

① 生徒をインソツする。

② クラスのケツソクを固める。

③ 道にマヨウ。

主な誤答例	分析・考察、指導のポイント
<p>(1)</p> <p>①引卒、印率、員卒 など</p> <p>②結足、結速、欠速 など</p> <p>③迷、迷う（「う」の 送り仮名まで書いて いる） など</p>	<p><b>分析・考察</b></p> <p>○文脈からふさわしい漢字を推察したり、語句の意味を考えながら漢字を考えたりせずに、音だけで判断し、自分の知っている漢字を書いている。</p> <p>○小学校で学習した漢字を忘れている。</p> <p>○とめ・はね・はらいに留意できていない。</p> <p><b>指導のポイント</b></p> <p>○「引率→引っ張って率いる」など、熟語の意味と使われている漢字のイメージが合致するように指導する。</p> <p>○新出漢字だけでなく、小学校で学習した漢字も復習する。</p> <p>○机間指導やノート提出などの機会をとらえ、日頃から漢字を使用することや、字を丁寧にかくことを指導する。</p> <p>○常用漢字表に基づき、とめ・はね・はらいや画数に留意して、漢字を書くように指導する。</p> <p>(例)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">迷</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">率</div> </div>

## 指導事例

### ★日頃の指導

○ノート指導をする。

- ・漢字の書き誤りや平仮名の多用、丁寧に記述していないもの（とめ・はね・はらい）等を指導する。

○授業で漢字を覚える時間をとる。

- ・眼だけでなく、手を使い、声に出して覚えさせる。

（例1）漢字を覚えさせるためには、なぞり書き→指書き→空書き→テストの順番で学習を進めると良い。まず、手本の漢字を人差し指の腹でなぞり、形を覚えさせる（なぞり書き）。次に、手本を見ずに書けるようになるまで、画数を数えながら、机の上に何度も指の腹で漢字を書かせる（指書き）。この時、机上进行をきれいに片づけ、手には何も持たないように留意させたい。さらに、全員で画数を数えながら宙に漢字を書かせる（空書き）。仕上げに、次の授業で、覚えた漢字の書き取りを出題し、ノートに書かせ、答え合わせをさせる。1回3問ずつ、年間50回の実施でも、3問×50回×3年間＝450問の漢字が確認できる。

（例2）特に間違いやすい部分を重点的に学習できるように「ヒント付きテスト」を活用し、漢字の正しい形を覚えさせる。



- ・漢字と、その漢字が持つ意味を結びつけて考えることができるように指導する。

①熟語の意味を訓読みから考えさせる。

②文脈から漢字の意味を考えさせ、生徒の語彙を増やす。

（例）熟語を使って短文を作らせる、辞書で用例を探させる等、文章と一緒に熟語の意味を覚えさせる。

いっしんに勉強する。→「一心」

心を一に集中すること。

仕事をいっしんに引き受ける。→「一身」

一人のからだ（身体）。

人員をいっしんする。→「一新」

古いことを全く改めて（一に改めて）、万事を新たにすること。

いっしん一退を繰り返す。→「一進」一退

進んだりあと戻りしたり（退いたり）すること。

「進」と「退」は対義語。

「進退」という言葉もある。

### ★テストでの指導

○新出漢字だけでなく、小学校で習う漢字もテストや小テストに出題し、復習させる。

○記述の問題であっても、漢字の書き誤りや平仮名の多用、丁寧に記述していないもの等は指導する。

② 佐藤さんの意見を参考にして、次の条件1、2に従い、**【B】**の文章を白字程度でまとめなさい。（句読点も一字に数える。また、改行はしない。）

**条件1**  
**【ア】**以外の果皮のはたらきの中から二つを選び、そのはたらきと果物の名前を入れること。

**条件2**  
何のために果皮がそうしたのはたらきをもっているのか、その目的を入れること。

# 本文

**4**

次の**【A】**、**【B】**の二つの文章を読んで、あとの(1)、(2)に答えなさい。

内容領域・評価の観点	正答率	無解答率
文章の構成・読む能力	43.3%	28.0%
内容領域・評価の観点	正答率	無解答率
内容の理解・読む能力	33.7%	29.4%

主な誤答例	分析・考察、指導のポイント
<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・果皮には、乾燥から実を守る・果肉や果汁に含まれる栄養成分を虫や鳥などにたやすく食べられるのを防ぐなどはたらきがある。果皮があるのは子どもたちであるタネをつくり自分たちの命を次の世代へつないでいくためである。果皮の目的はタネを守ることである。(条件1「果実の名前」なし)</li> <li>・植物が果実をつくるのは、子どもであるタネをつくり、自分たちの命を次の世界へつないでいくためです。ですから果物は実の中にあるタネを守り育てなければなりません。果皮はこのために実を守っているのです。(条件1「果実の名前」と「はたらき」なし)</li> <li>・果物は、乾燥するとタネはうまくつくれません。だから、スイカやカボチャのぶあつい果皮には乾燥を防ぐ意味が強くなります。リンゴやバナナは傷がつくと黒くなります。それは病原菌の感染を防ぐという大切な役割があります。(条件2「目的」なし)</li> </ul>	<p><b>分析・考察</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○条件1・2をよく読んでいないため、「果実の名前2つ」「はたらき2つ」「目的」のいずれかが抜けていた。また、問題文にある「句読点も一字に数える」「改行はしない」などの指示が守れていない解答も目立った。</li> <li>○「役割」や「意味」という文中の単語が、問いの「はたらき」と同じ内容をさすということに気付かなかった生徒もいる。</li> <li>○本文の該当部分をそのまま写した解答が多い。文章を上手に抜粋し、接続詞を利用しながら、指定字数内で自分なりにまとめる力が弱い。</li> <li>○リード文の設定が理解できていないため、<b>【A】</b>の文章をまとめたものや、無解答のものがみられた。</li> </ul> <p><b>指導のポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○細かく読み進める前に、全体をとらえる。筆者の主張や、その主張を効果的に伝えるためにどのような工夫をしているか等を読み取り、構成を明らかにする。</li> <li>○文章を意味段落に分け、小見出しをつけさせるなどの取り組みから、要約力を育てていく。</li> <li>○接続詞の働きを意識させながら文章を読ませたり、接続詞を使って短文を作らせたりする。</li> <li>○発問を的確に行い、その発問に対し適切な答え方ができるように、授業内で指導する。テストでは、与えられた指示に留意させるため、必要な情報に線を引くなどの習慣をつけさせる。</li> </ul>

## 指導事例

### 今回の記述問題を解くための手順と必要な力

- (1) 本文をよく読み、大まかな構成をとらえる。 → 構成をとらえる力
- (2) 設問を読み、解答に必要なポイントを○で囲む。(四番目のはたらき以外・果皮のはたらきから2つ・果物の名前を2つ・目的など) → 設問を分析する力
- (3) (2) で読み取ったそれぞれのポイントに対する解答を本文中から探す。  
→ 必要な情報を的確に読み取る力
- (4) 接続詞等を使って、(3) で読み取った内容をまとめる。  
→ 要約力

以上4つの力を育てるための指導事例を以下に紹介する。

### 「構成をとらえる力」「必要な情報を的確に読み取る力」を育てるために

・文章構成図を書かせる。

- ①形式段落に分け、それぞれの段落で一番大切な文を探させる。一文でない場合や文が長い場合は、要点を短くまとめさせる。

→「役割」「意味」「実を守る」などの言葉に注目させる。

(例)

- ① 果皮は、タネを守り育てるために実を守っているのです。
- ② 果皮には、乾燥から実を守るという大切な役割があります。
- ③ 硬い皮には、虫に食べられることから実やタネを守る意味があります。
- ④ 果皮には、病原菌の感染を防ぐという大切な役割があります。
- ⑤ 果皮は、病原菌と同様にカビの防御もしています。
- ⑥ 果皮は、カビの胞子がかからないように雨に洗われる必要があるため、ツルツルのものが多いのです。
- ⑦ 果皮は、タネを紫外線の害から守っているのです。
- ⑧ 果皮の目的は、実の中にあるタネを守ることです。

- ②具体例を探し、その効果について考えさせる。

※評論文では、具体と抽象、問いと答え、段落文頭に使用されている接続詞の働きなどを確認することが大切である。

- ③文章全体において、それぞれの段落がどのような働きをしているかに留意しながら、小見出しをつけさせる。

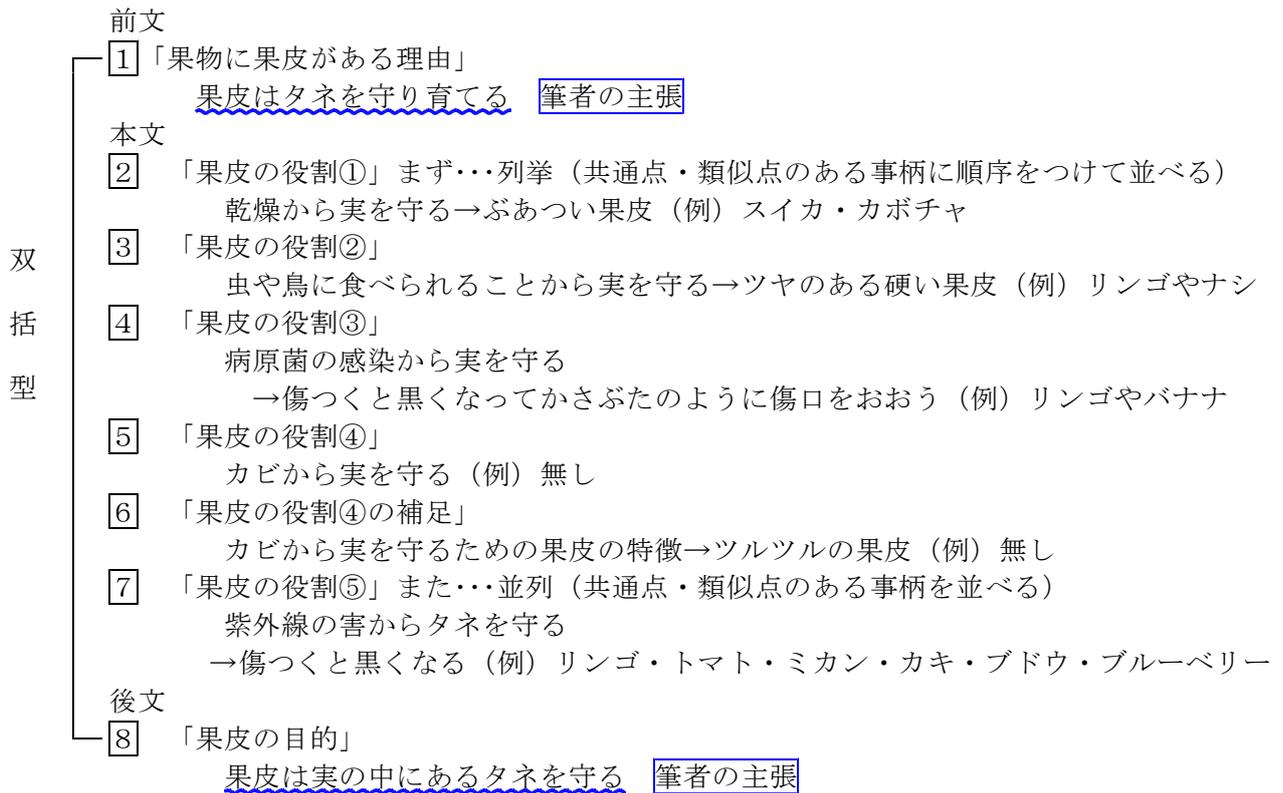
→果皮のはたらきが5つあることを押さえる。

- ④筆者の主張は何段落にあるか探させる。

→①段落と⑧段落が同じ内容であることを押さえ、「双括型」であることを確認する。

- ⑤意味段落に分けさせる。

## 【文章構成図の完成例】



## 「設問を分析する力」を育てるために

- ・問いを丁寧に読み、与えられた指示に留意させるため、必要な情報に線を引く等の習慣をつけさせる。

(例) 4 (2) ⑤の問いより

佐藤さんの意見を参考にして、次の条件1・2に従い、Bの文章を百字程度でまとめなさい。 (句読点も一字に数える。また、改行はしない。)

条件1 ア以外の果皮のはたらきの中から二つを選び、そのはたらきと果物の名前を入れること。

条件2 何のために果皮がそうしたはたらきをもっているのか、その目的を入れること。

- ・発問を的確に行い、その発問に対し適切な答え方ができるように、授業内で指導する。

(例) 「なぜ～ですか。」→「～からです。」

「どういうことですか。」→「～ことです。」

- ・解答を書く際のきまりを教え、テストを通して定着させる。

(例) 三十字以内で答えなさい。／句読点も一字に数えなさい。／句読点を含む。

→ 句読点も1字と数え、1マスに書く。

句読点を含まない。→ 句読点を字数として数えない、書かない。

一文で抜き出さなさい。→ 文頭から「。」まで、本文の通り書く。

## 「要約力」を育てるために

- ・接続詞の働きを確認する。

- ・文章中に使用されている接続詞のセットを使って、文章を書かせる。

(例) 「まずは、次に、最後に」

「しかし、つまり」など

- ・学習した作品と同じ構成を使って文章を書かせる。

(例) 「車には人間を守るための様々な機能がある。」という結論と、「まずは、次に、最後に」という接続詞を使用して、双括型の文章を書かせる。

- ・文章構成図を参考に、100～200字程度で要約させる。

必要な情報が取り出せているか、答え合わせをさせる。

## 4 授業改善の視点

# ○ 中学校国語における授業改善の視点

### 授業改善の視点

#### 1 基礎・基本に丁寧に組みこませる

生徒の書く力や読む力を育てるためには、まずは漢字の知識や語彙などの基礎力を身に付けさせることが大切です。この基礎力がないと、国語力を積み上げていくことはできません。

基礎力を身に付けさせるためには、漢字や語彙、文法学習（接続詞のはたらき・用言の活用・敬語等）に、毎日少しずつ継続的に取り組ませること、そして、覚えた知識を活用できるように練習させることが必要になります。例えば、日常生活の中で使用する機会を設けたり、短文を作らせたりすることも効果的です。また、漢字ならとめ・はね・はらいに留意させる、字は丁寧に書くなどの指導を日頃から行うことで、生徒は物事にじっくり丁寧に取り組む姿勢を身に付け、与えられた作品を最後まで読む忍耐力を培うことができると考えられます。

#### 2 発問や指示に的確に答える力を身につけさせる

生徒の答えの中には、良い考えを述べているにもかかわらず答え方が適切でないものが見られます。「なぜですか。」→「～からです。」「どういうことですか。」→「～ことです。」など、適切な答え方ができるように、教師側が発問や指示をきちんと行い、子どもの答え方を指導する必要があります。また、「一語で書きなさい。」→二語以上は×、「本文から抜き出しなさい。」→該当部分を一字一句違えずに書かないと×、「三十字以内で答えなさい。」→句読点も一字と数え、「。」も含み三十字以内で書かないと×など、記述のためのルールもきちんと教えていくことが大切です。また、意見を述べる際には、自分が思ったことを勝手に述べるのではなく、本文の内容から根拠を示して答えるように指導することで、論理的な思考を身に付けさせることができます。

#### 3 学習過程の明確化、言語活動の充実

現行の学習指導要領国語科では、「学習過程の明確化」や「言語活動の充実」が求められています。

例えば、「読むこと」では、語句の意味の理解、文章の解釈、自分の考えの形成、読書と情報活用のように、学習過程全体が分かるように指導事項が示されています。この学習過程に沿って単元を構成し、その単元で生徒に重点的に身に付けさせたい指導事項を指導する、あるいは、既習事項を単元に取り入れ、それを活用して反復的に繰り返しながら学習させたりすることを通して国語の能力を身に付けさせる視点が、国語科の授業では大切になってきます。

また、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることができるように、単元に言語活動を取り入れ、その充実を図る視点が大切です。

教師は、知識・技能を指導する授業だけでなく、これまでに学習した知識・技能を活用する場面も設定し、生徒が主体的に国語科の学習に取り組めるようにする必要があります。

### 〈授業改善に関する参考資料〉

- ・ 和歌山の教育 基礎・基本 (<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500200/h24/kyouikukisokihon.pdf>)
- ・ どの子も「わかる・できる」授業づくりのアイデア  
(<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500200/wakarudekiru/wakarudekiru.html>)
- ・ 全国学力・学習状況調査リーフレット等  
([http://www.wakayama-edc.big-u.jp/zenkoku/h21\\_kyosyokuin\\_leaf.pdf](http://www.wakayama-edc.big-u.jp/zenkoku/h21_kyosyokuin_leaf.pdf))